

研究領域名	出ユーラシアの統合的人類史学：文明創出メカニズムの解明
領域代表者	松本 直子（岡山大学・社会文化科学研究科・教授）
研究期間	令和元年度～令和5年度
領域概要	<p>人間が物理的に生み出す物質、人間の身体、それらの相互作用の中核にあって文化を生み出す心という三つの視座の下に、出ユーラシアを果たしたホモ・サピエンスの最終到達地域であるアメリカ大陸・日本・オセアニアを対象として、各地域で相互に独立して展開した文明形成期の物質文化に焦点を当て、ヒトに特異的なニッチ（生態的地位）がいかに形成されてきたかを検討する。身体を介した物質と心の相互浸潤モデルに基づく学際的研究により、人工的環境構築によって人間の心、身体、社会がどのように変わったかを分析し、文明を生み出す人間の特異性と文明創出メカニズムを解明する。物質／心、自然／文化、普遍性／多様性といった二元論的見方を超えた新しい研究領域「統合的人類史学」を構築する。</p>
科学研究費補助金審査部会における所見	<p>本研究領域は、ホモ・サピエンスの諸能力が、その種分化の時点から長期の時間を経て爆発的に発達する／発揮されるようになる契機とメカニズムについて、日本発の体系的な取組を意図した提案である。ホモ・サピエンスの種個体群としての拡散の末端であった地域において、様々なファクターに関する動態を解明するという点に顕著な新規性がある。最大の特徴は、数理モデルと人類学・考古学等の人文社会諸領域の研究を融合させることで、文明が創出されるメカニズムをモデル化しようとする壮大なプロジェクトという点である。</p> <p>研究領域の構成は、国際的研究の進展を参照しつつ、既に顕著な展開を見せている研究キープレイヤーとそのチームによって担われており、世界をリードする日本発の研究の展開が期待される。研究期間終了後に発信される成果は、文理融合研究の成功例として学術的にも研究パラダイムの形成に大きく寄与するとともに、社会的に高い注目を集めることが期待される。</p> <p>一方、新学術領域の創成という目的達成のためには、方法論が異なる分野から構成される各計画研究を有機的に連携させ、研究領域の成果として統合する体制の構築が必要である。</p>